

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社が示した運営理念を達成できるように、事業所と各ユニットの運営理念を作り、書かれているものが目の届くところに貼ってある。また、毎月のユニット会議では職員と管理者で話し合いの場を持っている。	全社的な基本理念を踏まえた上で、事業所としての理念を作成しています。また、ユニット毎でも理念を作成し、理念を実践できるように毎月の目標を立て取り組みを進めているほか、個人目標も設定し毎月のユニット会議で振り返りの機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の薬局にご入居者様と訪問し、作品の展示や広報誌をおかせてもらったり、布巾を使ってもらっている。夏祭りには近隣の小学校からテントをお借りするなど協力をいただいている。	定期的に事業所広報を近隣世帯に配布しているほか、事業所の夏祭りには地域の方が来てくれたり、近隣の保育園の子供にも来てもらうなどして地域との交流を図っています。	町内行事にもご利用者と一緒に参加する機会を設け、より地域との交流を図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が立ち寄りやすい雰囲気作りに努め、近隣にお住まいの方の相談に応じられる体制となっている。地域交流の行事の際やホーム通信により認知症の理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様、入居者様のご意見を頂き、入居者とスタッフがお酒を飲みに行く・好きな食べものを食べる(たらこ)など、具体的に相談し、話し合うことでサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、民生委員、小規模多機能事業所管理者、包括支援センター職員、ご家族に参加していただき、単なる報告に留まらず具体的な取り組み内容や改善課題を話し合い忌憚のないご意見を頂いてサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。	運営推進会議には町内の代表者にも参加して頂けるように働きかけ、地域での活動情報を収集し、地域との交流に繋がれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症サポーター養成講座やオムツ券の申請などで、市や区の担当者との連携を心掛け、課題解決を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	事故の報告や地域ケア会議にも参加するなど、折にふれ市の担当者との連携を心掛け、課題解決を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は部分開錠を実施している。リスクを軽減する為に、職員間で話し合いの場を持ち、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、内部でも研修や事例検討を行っています。職員の言葉の使い方についても抑制にならないよう、職員同士で注意したり会議での振り返りも行っています。	調査時点で日中の時間帯も玄関の施錠が行われていましたので、夜間帯のみの施錠にできるように改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修のもと、職員は身体的・心理的虐待について定期で学び、理解することで防止に努めている。	会社として虐待防止に努めているほか、具体的な虐待(目に見える虐待・無視する等の見えない虐待)に対する理解を深め、職員による虐待の徹底防止は勿論、他での虐待が見過ごされることがないように、研修の機会を設け虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修を実施し制度の理解を図っている。また、制度の活用が必要と感じられる時は関係者との十分な話し合いの上で適切な支援が実現できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分に説明を行い、ご入居者様やご家族様の疑問の解消を行っている。また入居後も随時、質問を受けられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートに基づいて対応している。意見箱の設置やホームの他にも第三者的に苦情を言える機関を設けている。また意見、不満、苦情から改善できることに取り組んでいる。	カンファレンス時や面会時、運営推進会議等でも積極的に意見、不満、苦情を伺うよう心掛け、前向きに運営に反映させていくよう取り組んでいます。また、年に1度会社でご家族へのアンケートを行い、意見・要望の確認を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに月に1度会議を行い、業務の見直しや職員の意見がきける体制がとられている。各ユニットに意見ノートを設置して、誰でも意見や提案ができる体制をとっている。	毎月ユニット会議を通して定期的に意見や提案を聞く機会を設けています。また、意見ノートを活用し、日々の業務を通して現場職員の声に耳を傾け運営に反映させています。ユニットリーダー、ホーム長、エリアマネージャーが職員との個別面談の機会も設け、率直な意見の収集が出来るようにも努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を随時行っており、フィードバックを行うことで今後も向上心を持って働けるような職場環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修や管理者の研修など、本社やエリアで計画的に研修が行われている。また、ホーム内の研修も行われている。内容は書面での報告のほか、ユニット会議でも報告し、他職員に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には他事業所が参加している。また、近隣のグループホームと交流(広報誌のやり取り・行事への参加)を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化への不安を少しでも和らげられるよう、見学時や入居後もご本人がお話ししやすい雰囲気作りに努め、不安や要望等に耳を傾け、信頼関係作りを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気楽に話せるような雰囲気作りを行い、これまでの経緯や生活歴、現在の生活の様子、困っていることや不安な事、今後の希望等を伺い、ご家族様の本人様に対する思いを十分受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の実情や要望をふまえ、尊厳のあるその人らしい生活を実現する上で、早急に必要とされる支援を提供しつつ、他のサービスも相互性も考慮して、生活の質の向上を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な分野での活躍の場を作り、一緒に作業を行うことで支えあう関係作りに努めている。また普段から信頼関係作りに努め、困った時は相談していただけるような関係を目指している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のおたよりにてご本人の生活の様子を報告している。行事の参加等を通じてご家族様と交流を図ろうと努力している。また、ご家族様によってはカンファレンスに参加して頂いている。	ご家族への毎月のお手紙の送付や事業所広報誌の送付も年4回行われ、生活の様子をお伝えしています。また、ご家族の面会時にはご本人の様子を伝えたり、以前の生活の様子をお聞きしたりしてご家族との関係を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚やご友人、馴染みの人には交流を継続していただけるよう、いつでも面会に来ていただけるような環境作りを行っている。また馴染みの場所に行けるよう努めている。	ご家族にも協力を得てご自宅へ出かけたり、お寿司を食べに行かれたり、職員とも一緒に長岡の花火を見に行くなど、ご利用者の要望に応じてこれまでの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や手作業を通じて、お互いに支え合えるような関係作りが築けるよう支援している。また昔話等のお互いが共通する話題を提供する事で、孤立せず共感し合えるような関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も助言や働きかけを断ち切ることなく、継続的な関わり合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に十分話しを行い、また普段の何気ない会話からも本人の意向につながるものを見つけようと努めている。センター方式C1-2を活用している。	ご利用者がどのような思いや希望を持っておられるのかを年に1度、センター方式を活用し検討しています。できるだけ日々の暮らしの中での会話を充実させ表情なども考慮した上で、そこから感じられる思いや希望をくみ取る努力をしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族様から今までの生活歴や日中の過ごし方をお聞きし、趣味を活かしていただいたり、馴染みの場所に行くなど努めている。センター方式B-2を活用している。	センター方式を活用し、入居の際にご家族から今までの生活歴や日中の過ごし方をお聞きして情報を把握しています。また、日々の生活の中で得られた情報についても追加して、職員間で情報を共有しています。	調査時点でご利用者によっては、これまでの情報収集量が少ない方もおられましたので、今後も情報収集に努められることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの個別性を大切にし、身体面での運動機能の維持・向上をご本人様と話し合いながら日常の生活の中で取り入れていけるようにしている。また残存機能を十分に活用していただけるようにADL表を用い、職員が統一した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様からの意向は、ご家族様によってはカンファレンスに参加して頂き、お聞きすると共に、医療機関などの意見の反映をふまえ、ユニット全職員の話合いのもと、介護計画を作成している。	ご家族様からの意向は面会時や電話にて確認させていただき、ケアマネージャーが毎月モニタリングを実施し、3か月に1度はサービス担当者会議を実施し、ご家族、職員との話し合いのもと介護計画を作成しています。	調査時点でケアプラン実施記録にチェック漏れのある箇所もありましたので、今後漏れが無いように周知されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはその時々会話、表情、行動など詳しく記録することとされている。またそこから読み取れることをユニット内で共有し介護計画や日々の対応に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日と同じ日課で過ごすのではなく、入居者様のその日の体調や気分に合わせて支援できるよう心がけている。また天候の良い日には散歩を行ったりと環境の変化にも対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生を受け入れ、普段とは違う関係性の交流の中で楽しい生活を送っていただけるようにしている。また、ご家族様が行けない受診等は社会福祉協議会のまごころヘルプのサービスを活用させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の付き添いが可能で希望があれば、今までと同じ医療機関を受診して頂いている。受診同行の際は詳しい状況を手紙にし、かかりつけ医との情報交換が密に行えるようにしている。	現在、入居前からのかかりつけ医による継続的な医療をご家族の同行で受けられている方も多いですが、往診にも来て頂いており、ご家族が対応できない場合は職員が同行し状況を説明し、ご家族が同行される場合には詳しい状況を手紙にして持参して頂くなどしてかかりつけ医との情報交換及び関係構築に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との情報の共有により、看護職員からの助言や指導をいただき健康管理に努めている。また受診の際には病院看護師に相談できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が安心して治療を受けられるよう、個々の生活状況をできるだけ詳しく情報提供書に記載している。認知症ということもあり、入院生活が長引くと機能低下等を招きやすいので早期退院に向け医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様・御家族様と早い段階から意向を中心とした十分な話し合いを行い、支援に取り組んでいる。また状況にあった支援が出来るよう、医療機関との連携も大切にしている。	事業所の重度化した際の対応の指針に基づき、契約時にご家族への説明を行っています。ご利用者の状態に応じて、ご本人及びご家族とかけつけ医との話し合いを行い対応方針の共有化を図っています。また、時間をかけて段階的に終末期に向かう場合は其々の段階でご本人、ご家族、かけつけ医及び関係者等で繰り返し話し合い方針を共有化しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、看護師の勉強会や指導にて急変時や事故発生時の対応がなされている。また消防署主催の普通救命講習に参加し急変時に備えている。	日頃より入居者様個々の身体的状況を把握し、看護職員と情報交換して常に予想し得る急変に対しての対応を共通認識するように努めています。また、看護職員による研修の機会も設け、急変や事故発生時の応急手当や初期対応に備えています。	普通救命講習をまだ受講されていない方もおりますので、今後消防署主催の普通救命講習への参加を促し、多くの職員が受講されることを期待します。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的な避難訓練や通報訓練を行い、対応できるよう努めている。訓練の際には近隣の方にも協力を呼び掛け参加して頂いている。消防署と連携をとり、どこに入居者様を待機させるか決めている。	年2回、日中や夜間の火災に対する避難訓練を行っており、地域の方にも参加していただき、職員間での誘導方法の共通認識も形成されています。また、非常食や飲料水、懐中電灯、ろうそくなどの備蓄も準備されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等の個人情報の取り扱いや使用時には日々十分配慮している。入居者様にも自尊心を損ねるような対応を行わないよう心がけている。	入居者様個々の尊厳や権利を守ることはケアの根幹であると考えています。そのためのケアの基本となる誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや記録等の個人情報の取り扱いには日々充分努めており、内部研修の機会も設け確認する機会を設け徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢をもって入居者様が決定を行なえる場面が多くもてるよう心掛けている。また外出の希望などはなるべく実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日と同じ日課で過ごすのではなく、入居者様のその日の体調や気分に合わせて支援できるよう心がけている。また天候の良い日には散歩を行ったりと環境の変化にも対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、起床時に確認している。おしゃれについては入居者様が持っているものの中で工夫配慮している。散髪については本人の希望をスタッフが聞くなどに対応している。パーマやカラーなどの希望にも添えるような体勢が整っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調によっては、おかゆを提供したり、苦手な献立があれば違うものを提供するなどの対応をおこなっている。週に3回きなごご飯にしたり、弁当レクやおやつレクも行っている。	月に1度はご利用者の希望に合わせたメニューを提供するようにしており、お寿司やパンのバイキングなどのメニューも取り入れています。また時折、近隣のファミリーレストランに外食に出かけたり、居酒屋にも出かけるなどして食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量の少ない方は、表を作成や、補食(菓子パン等)を行っている。毎週日曜日は、ご入居者様からのリクエストメニューを取り入れ、ユニットによっては毎月1回季節に合った食事づくりを行い、メニューもご入居者様と決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の口腔内(義歯、残存歯等)の状況に応じての対応を行っている。またその方のできることは行っていただき、残存機能をいかにさせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは一人ひとり違うので、しっかりと把握し、現状維持はもとより向上を念頭に取り組んでいる。また定期的に見直しや話し合いがもたれ、より良い支援に努めている。個々の排泄状況や排泄パターンを把握した上で、時間帯や状況に応じて使い分けている。	排泄パターンは一人ひとり違うので、しっかりと把握し、現状維持はもとより向上を念頭に取り組んでいます。また、定期的に見直しや話し合いがもたれ、より良い支援に努めており、個々の排泄状況や排泄パターンを把握した上で、時間帯や状況に応じて使い分けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、日常生活を見直し、散歩やユニット内歩行等生活内で出来る運動や食事から便秘の予防や解消を働きかけている。また便秘の原因や及ぼす影響への理解にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望については、毎日入居者様に確認している。また職員は個々の入りたい時間を把握し、お声掛けを行っている。入浴が苦手な方についてもできるだけ入って頂けるように工夫して支援している。	入浴希望はご利用者に伺っており、希望に添える様努めています。また、職員が入居者様個々の入りたい時間帯を把握しており、その時間帯に沿って入浴の声掛けを行っています。	調査時点でユニットによっては、入浴回数が全体的に少ないところもありましたので、入浴回数を上げられるように改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や安眠に向けての援助を生活習慣の違いも考慮に入れ個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の内服薬について職員は理解し、内服していただく際も個別の支援を行っている。また、誤薬のないよう、数人の職員で確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の得意分野を中心に役割を持っていただき、日々の生きがいにつながるよう支援している。また楽しみごとにも個別に把握し、気分転換していただける機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望から散歩や買い物、ドライブを日常的に支援している。また天候によるが草取りや洗濯干しも日常的に行われている。 外泊希望のある方にはご家族様と協力し合い、実施している。	買い物などの日常的な外出のほか、季節に合わせて応じて初詣やお花見、ぶどう狩りに行くなどの外出支援も行っています。また、個別支援にも力を入れており、ご利用者の要望に合わせて回転寿司に出かけたり、居酒屋で職員と一緒にお酒を楽しむこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなかご本人が管理する事は難しく、お金はすべて事務で管理している。管理できない場合でも、ご本人が持っていたいという時は、御家族に理解を求めた上で小額を持って頂いている場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙がきたらお返事を書かれている方もおり、また自力で書かれない方でも支援を勧めている。電話も同様に支援を行っている。定期的にご家族に書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には入居者様が作られた手作業の作品を置き、飾っている。また季節感のあるものをとり入れている。またトイレには消臭剤が置かれていたり、居室等も換気を行ったりと配慮を行っている。	居間や食堂では居心地よく過ごせるようカーテンで眩しさをこまめに緩和し、その時々合った音楽のCDを流したりテーブルには季節の花を飾るなどしています。廊下壁面にホームでの行事等の写真や季節感をとり入れたものなどを貼り出したりご利用者の作品を掲示したりしています。	調査時点で何箇所か埃が気になる箇所もありましたので、これまで以上に清掃を意識されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて、くつろげるスペースを確保している。また廊下のつきあたりにも座れるスペースがあり、入居者様は自由に選択することが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人の使用していたものを多く持ってきていただくことで、居心地の良い空間になるよう配慮している。	入居時にできるだけこれまで使ってこられたなじみの家具などを持ってきて頂くようお話ししており、ご本人が居心地よく過ごして頂ける様配慮しています。長年使ってきたタンスや鏡台、思い出のある人形や飾り物などを持ってこられている方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	同じような扉で分かりにくいものには、張り紙やのれん等で判断しやすいよう配慮している。またホーム全体で連携を図り、ユニット間で入居者様が行き来できる体制である。		